



## これまでの活動をふりかえって

生活環境学部 准教授 中山 徹

この現代G Pは平成17年度の後期からスタートし、ちょうど2年が経過しました。事業終了まであと半年です。皆様のご尽力で概ね当初の予定通り事業が進み、まとめの段階に入りました。事業の成果はたくさんありますが、最大のもは学生が地域に出て、地域の方々と関わりながら、教室では学べないものをたくさん得たことだと思います。また、微力ではありますが、学生が地域に関わることで、地域のお役に立てた面もあったかと思っています。どのような点がよく、反省すべき点はどこかなどを整理し、今後の糧にしたいと考えています。

また、全学部で取り組む「生活観光」をテーマとした新たな現代G Pが本年度採択され10月から事業を開始することになりました。一部の取り組みはそちらで発展的に継続することが可能となりましたが、それ以外の取り組みも授業等を通じて地域と関われる仕組みを残したいと考えています。

## 2007年度前期の取り組み

前期は、キャリアデザイン・ゼミナールとして「24時間テレビスタッフ体験講座」、「正倉院展と奈良のまちに学ぶ」、「安全・安心のまちづくり実践講座」の3科目、また生活環境学部共通科目として「女性起業家から学ぶ」、「世界遺産と地域計画」の2科目を開講しました。キャリアデザイン・ゼミナールでの現代G P関連授業も2年目になりましたので、これまでの取り組み実績をふまえ、授業計画、実施方法に改善を加えて実施することができたと思います。さらにアドバンスプログラムの「奈良漬プロジェクト」では商品開発を行い、「正倉院展関連イベント」も取り組みの幅が広がってきました。

また今年8月から、本学では奈良市、奈良街道まちづくり研究会、花芝商店街と共同で平成19年度全国都市再生モデル調査事業「中心市街地に居住する大学生のコミュニティ市民化実践調査」（都市再生本部委託事業）に取り組んでおり、現代G Pでの成果も調査の対象となっています。

## 女性起業家から学ぶ



職場訪問

今年度は、女性起業家の方から話をお聞きし職場訪問するという昨年度の体験型授業にプラスし、実際に起業・経営をするためのノウハウを学ぶ実践型の授業を行いました。

主に奈良市で活躍されている女性起業家の長田朱美氏と湯脇智子氏、奈良市男女共同参画センター「あすなら」において女性のためのチャレンジショップで起業されている4名、奈良市男女共同参画課の中辻良行氏をゲストスピーカーにお招きし、起業までの経緯、仕事内容、やりがい等、体験に基づく貴重な話を伺いました。その後、お話を伺った方の職場訪問を行い、店の様子を観察したりインタビューを行うなどしました。

さらに中小企業診断士の上田実千代氏を講師にお招きし、計4回、上田氏自身の体験から会社を起業・運営するための必要な知識に至るまで多岐にわたり学びました。そして実際にビジネスアイデアを各自で考え、発表することによって、社会で求められているビジネスは何かを考える良い機会となりました。



起業プランニング体験



## 24 時間テレビスタッフ体験講座

昨年に引き続き、奈良もちいどのセンター街マイنز広場での 24 時間テレビ「愛は地球を救う」（日本テレビ）にあわせた商店街イベントに参加しました。今年は約 20 名の学生が、ステージ企画班、製作班に分かれ、当日は学生デザインによるピンク色の商店街スタッフの T シャツを着て様々な取り組みを行いました。

ステージ企画班は「チャリティーオークション」、「ビンゴ大会」、奈良女子大学オリジナル企画「商店街 de お宝探し★」の企画・運営をするほか、商店街の入り口で人を呼び込むために、様々なゲームを用意した「チャレンジコーナー」を行い、多くの方々に楽しんでもらいました。また、製作班は、毎年マイنز広場の上に飾られる大仏の背景を演出するため、会場に来られた皆さんからメッセージをもらい、ぼんぼりの中に入れて飾りました。最終日の夜にはぼんぼりの点灯を行い、鹿のシルエットが浮かび上がるという仕掛けもあり、例年とは違う会場演出をすることができました。



ステージ企画班：商店街 de お宝探し★



製作班：ぼんぼり吊り下げ作業

## 正倉院展と奈良のまちに学ぶ



観光ルートの提案



尻川地藏盆の調査

前半は観光ルートの資源発掘をテーマに、新しい観光のあり方とまちづくりに関する各地の事例や、昨年から大学が関わっている「はじまりは正倉院展」の取り組みについて学び、スタンプラリーのルート設定について学生の視点から評価、検討を行いました。さらに、奈良国立博物館工芸考古室長の内藤栄氏にお越しいただき「正倉院宝物とならぬまち」と題した講演から、正倉院展開催の経緯や奈良のまちとの関わりなどについて学びました。

後半は、エリアの資源発掘をテーマに、奈良阪町の歴史に詳しい村田昌三氏に奈良阪の地蔵と地蔵盆についてお話をいただき、きたまち周辺の地蔵調査を行いました。調査では、地蔵の分布や立地特性などを調べ、実際に 7 月 23・24 日の地蔵盆に参加して、地域の方々にお話を伺いながら、当日のスケジュールや行事、地蔵の祀り方・演出方法、祭りに参加されている人や組織の特徴など様々な面から調査を行いました。これらの結果については、パネルなどにまとめ、正倉院展期間中に情報発信をしていきたいと考えています。

## 安全・安心のまちづくり実践講座

この講座では、ひったくりや自転車盗などの身近な被害を取り上げ、調査やワークショップを通して、被害発生の現状や犯罪防止対策について検討を進めました。

調査では「自転車時ひったくり防止対策」と、「安心感のある駐輪場のあり方」をテーマに、奈良県警察署や大学近隣の駐輪所にヒアリングを行ったり、学生にアンケート調査を実施したりしました。さらに、過去に子どもが巻き込まれた事件も発生しその後地域で積極的な対策活動を行っておられる富雄地区自治連合会会長安達孝雄氏に「子どもの安全を守る～奈良市富雄地区の活動と課題～」の講演をいただくほか、奈良県警察本部生活安全企画課の宮本勝弘氏には「犯罪から身を守るには～奈良県の犯罪情勢と防犯対策のポイント」と題した講演で、犯罪発生の状況や抑止のための対応策について具体的な事例を取り上げながらお話をいただきました。

それらの結果を、県警の方や講義に来ていただいた講師の方も交えた成果発表会で報告し、ひったくりも自転車盗も、狙われる対象であることを一人ひとりが意識することも重要な防止策であるというアドバイスをいただきました。



ワークショップによるひったくり・自転車盗の原因と対策の検討



成果発表会

## 世界遺産と地域計画

この授業は、立命館大学歴史都市防災センターの益田兼房先生、板谷直子先生、李明善先生に見学や演習を交えた講義を行っていただきました。

前半の講義では世界遺産の価値や保護の手法、文化遺産を守るための地域計画のあり方や文化の伝承に関して学びました。その後、大学周辺の世界遺産である東大寺、春日大社、元興寺を見学に行き、時代ごとの建築様式の特徴や防災・防火のための整備などについて説明を受けました。また元興寺では拝観時間終了後に、特別に極楽坊、収蔵庫などを見せていただいたほか、文化財研究所の高橋平明氏に「ならまちと元興寺－その歴史・宗教・民族－」と題した講義も行っていただきました。

授業後半は、「世界遺産元興寺旧境内 奈良町の変化を読む」と題したワークショップを実施し、元興寺周辺の街並の変化について学生が路地や格子など様々な視点から調査・分析を行いました。成果発表は昨年と同じく、奈良町セミナーハウスにおいて行い、地元の方からの講評もいただきました。

身近に立地する世界遺産について改めて見つめ、地域との関わりについて学ぶ貴重な機会となりました。



元興寺見学



成果発表会



商品開発の様子



JA Tenjochopp 前での販売

## 奈良漬プロジェクト

6月に植村牧場、JA 奈良支店朝市組合と共同で奈良県「新商品・サービス開発事業」に採択され、『大和野菜と奈良漬を使ったこだわりスイーツの開発』として、奈良漬と奈良の伝統野菜である大和まな、小しょうがを活用した菓子を開発しています。奈良漬プロジェクトの学生は主に、商品開発と広報・販売活動に関わっています。

この第1弾の取り組みとして8月に毎年奈良公園一帯で開催される<sup>とうかえ</sup>燈花会の期間中「奈良のご当地アイス」の試験販売を行いました。販売は、もなかアイス（大和まな、小しょうが、奈良漬）とカップアイス（奈良漬クッキー入）の計4種類で、学生は自分たちが開発したアイスの販売とあり、行き交う人々に熱心に売り込みをしていました。マスコミにも多く取り上げていただいたこともあり、最終的には計1900個以上を販売し大変好調な売れ行きでした。購入していただいた方には、新しい奈良の味を楽しんでいただけたようです。

今回開発したアイスの一部は、県の「奈良のうまいもの」に選定され、今後も植村牧場で販売されることが決定しています。さらに同事業では、秋の正倉院展の期間にも焼き菓子の販売を計画しています。

## 授業を履修した学生の声

生活環境学部食物栄養学科 2回生 里めぐみさん

この夏、奈良漬プロジェクトでは奈良の名産品を作ろうと、奈良漬・大和まな・小しょうがのアイスを開発・販売しました。開発開始から販売までの日数が短いなか、アイスの試作や話し合いを何度も重ね、無事に販売の日を迎えることができました。

今回のアイス販売をきっかけに、観光客の方々にはもちろん地元の方々にも奈良の名産品をより身近に感じていただけたらうれしいです。私自身としても今まで知らなかった奈良に触れる貴重な経験となりました。



生活環境学部住環境学科 1回生 杉山亜里紗さん

私がこの授業を受講した理由は、24時間テレビという社会的なものに参加することで、自分が成長できると思ったからです。

製作班は、長い間話し合いをした結果、大仏横のぼんぼりの装飾とマスコット作りをすることになりました。どちらも参加者とのコミュニケーションを交えたもので、来て下さった方々に楽しんでもらえるよう全力を尽くすことができました。物事を進めるなかで、話し合いの難しさを痛感したこともありましたが、そこから学んだものは言葉では表せないほどとても大きく、貴重なもののように思います。





実行委員会



昨年の国立博物館冊子配布の様子

昨年から、商店街や奈良女子大学、まちづくり団体など計 12 団体が実行委員会を組織し実施しているスタンプラリー「はじまりは正倉院展」は、2 月から実行委員会を開催しています。昨年の取り組みも参考に、コースを再検討したり、ラリーに参加した方へ冬の奈良を楽しんでもらうツアーを特別に企画したりと、冊子の充実を図っています。また「まちかど正倉院」として一部のホテル・旅館、商店、そして本学も参加して期間中特別展示や正倉院文様の商品販売などを行います。

また、奈良町セミナーハウスでは、大学院住環境学専攻有志で「M project *gokan*」を企画し、町家を照明や音楽などで演出し「五感」を刺激する体験型のイベントを行い参加者の作品がさらに空間を変化させていきます。カフェの営業やファッションショーも予定されています。今年の正倉院展は 10 月 27 日～11 月 12 日に開催されますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

## 地域の祭り・イベントへの参加

現代GPでの取り組みも 3 年目となり、地域での祭り・イベントのお手伝いをさせていただく機会も増えました。

今年は、7 月 14・15 日に奈良町セミナーハウス近くの毘沙門町・十輪院町合同で開催された「毘沙門天祭り」、7 月 24・25 日に奈良町天神社で開催された「天神社夏季大祭」、8 月 5 日にきたまちで開催された「幻燈会」に、学生有志がボランティアで参加しました。大学周辺をはじめとし奈良に住む学生も多くいますが、地域の行事や祭りに参加することは少なく、住民の方や子どもたちとふれあえる貴重な機会となったようです。

また、上記奈良町セミナーハウスでの「M project *gokan*」に先立って、同メンバーで 10 月 21 日（日）に奈良町界限で行われる「わらべうたフェスタ 2007」にも参加し、「染め体験」のコーナーを設けます（先着 20 名様）。お気軽にお立ち寄り下さい。



毘沙門天祭り



幻燈会灯籠の準備

### 地域懇談委員の声

奈良街道まちづくり研究会 事務局長 山口育彦氏

近鉄奈良駅から北側のエリア「きたまち」には、奈良女子大学記念館を初めとした伝統的建造物や古くからの生活文化・遺産が数多くあります。こうした地域遺産を活用して、きたまちの活性化に取り組んでいただいている奈良女子大学の先生方や学生の皆さんには大変感謝しています。今年の夏も地蔵盆や幻燈会等にも地域の人々と一緒になって汗を流していただきました。少子高齢化社会にあって現代GPを通じた大学と地域との連携は、今後ますます重要となってきます。学生の皆さんが、「大学生活 4 年間は奈良の住民だ」という意識を持って、今後も奈良の活性化について研究を深めていただけるよう大いに期待しています。



### 新たな現代GPの採択

本学は平成 19 年度現代GP「古都奈良における生活観光—地域資源を活用した全学的教育プログラム—」に選定され、10 月から文・理・生活環境全学部で事業に取り組みます。

この事業は、奈良市および地域の皆様や諸団体と連携しながら「生活観光※」という考え方を通して、地域資源を発掘・再評価・発信するプロセスを実践的に学び、新たな観光設計に取り組むものです。今までの現代GPの取り組みの一部を生活観光という視点から大きく発展させ、正倉院展の時期を中心に情報発信、成果発表を実施していきます。

※生活観光：地域の生活環境の再評価と観光による地域の活性化

## 発行元

奈良女子大学生生活環境学部 現代GP推進室

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 TEL/FAX：0742-20-3991

E-mail：gp-gendai@cc.nara-wu.ac.jp HP：http://www.nara-wu.ac.jp/gp/